

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和元年度 第3回近江八幡市総合教育会議		
開催日時	令和2年2月13日（木）9時15分～11時00分		
開催場所	近江八幡市立金田小学校		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>出席者（敬称略）</p> <p>市 長 小西理（◎）</p> <p>教育長 日岡昇</p> <p>教育長職務代理者 久家昌代</p> <p>教育委員会委員 八耳哲也、安倍映子、西田佳成</p> <p>（欠席者）なし</p> <p>◇傍聴者 1名</p>		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	<p>所属名、担当者名 総合政策部企画課 万野</p> <p>電話番号 0748-36-5527</p> <p>メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp</p>		
会議記録	発言記録 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局

1. 開会

市長

2. あいさつ

- 教育現場での意見交換にご協力を賜りありがとうございます。子どもたちの様子を参観した後、意見交換をさせていただきたい。

楠本校長

3. 校長による説明

- 金田小学校の特別支援教育の現状について説明
支援が必要な子どもたちの現在の様子や来年度の在籍見込みについて説明。また、対象児童数が増加し、子どもたちのニーズも多様化していく中、十分な人員配置が望まれる現状について説明。

4. 学習参観

特別支援学級等の学習参観

5. 議題

「インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の現状と今後の方向性について」

教育委員会
事務局

- 近江八幡市の特別支援教育の現状について説明
特別支援学級在籍の児童生徒数が増加傾向にあること、支援員の配置など支援体制の充実を図っていること、医療・福祉との連携が必要であること等について説明。

委員

- 良い授業の中で学習を保障すること、生活力を高めていくことで、インクルーシブ教育が活きて、豊かな子どもが育っていく。本日の参観では支援員が個別ニーズに合った学習を展開していたので学びに繋がっており、改めて必要不可欠だと感じた。
- インクルーシブ教育を進めていく中で、親御さんも地域の子どもと一緒に学び合いたいと願っている。これまでの特別支援教育の在り方に加え、さらに支援を充実し、教育展開が必要になってきている。

委員

- 学校施設のハード面は充実してきているが、教育はソフト面が原点である。インクルーシブ教育は大きな構想であり、学校だけではなく地域や家庭も含んで市民全体で考え方を理解していかないといけない。
- 滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例ができたが、学校だけではなく、一人ひとりが認識し、行政と教育委員会がともに進めていくことが大事である。

- | | |
|------|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちを見て、先生のリードが良かったと感じた。支援員が多くいると子どもも保護者も安心して学校に通える。しかし、学校に任せきりではなく、家庭環境でも関われる部分があると感じた。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 支援の必要な子どもが、今後、通常学級にも増えていくと思う。支援員がいたら勉強が分かり自信に繋がるので必要だと思ったが、家庭でも親が寄り添って学習を見てあげないといけないと感じた。 |
| 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 通常学級の子どもたちにもそれぞれに支援が必要なので、特別支援学級の「特別」には抵抗を感じている。地域の人には一人ひとりの個性や支援を理解してもらう中で、インクルーシブ教育の考え方を地域に分かってもらい、浸透させていかないといけない。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 本市の特別支援教育は保護者や社会のニーズにマッチしており、個々の学習支援等に大変ご尽力いただいている。他の子どもたちとの関係はどうか。 |
| 楠本校長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 朝の会や行事等の交流の中で、温かく、自然体と一緒に過ごしている。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● その関係は素晴らしい。個性的なことを嫌う排他的な日本社会であるが、自分と違う人を違うままに受け入れられるような社会でありたい。 ● 学習意欲のある人には十分な学習機会を提供したいが、次のステップとして、受け入れられる社会づくりが必要である。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 幼稚園ではバギーの子どもを見たときに初めて違いに気付く。その時に違いを正しくキャッチできると、理解に繋がり、支援に繋がる。助けを求める生き方と、助けていこうとする生き方が一つになることで、初めて共生社会が成り立つ。 ● 生活力、学習能力を高めていくことが全ての子どもにとって大切であり、分かる教育を進めていく支援員の役割は大きい。しかし、今後は、今まで以上に、小学校内だけの支援ではなく、専門学校や専門機関との連携が必要である。 |
| 教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ● あらゆる角度からの障がい児支援は必要であるが、不登校や病弱等のあらゆる子どもがいる中で、色々な人が関わって、全ての子どもたちが色々な課題を乗り越えていけるようにしたい。 ● 就学前、小学校にかけて、子どもたちは確実に育っているが、全ての人に子ども一人ひとりの個性を理解していただきたいので、地域に開かれた学校でありたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人が学校を見る機会は多くなっている。どう地域が理解して、支援していくのかを考えると、どのようなインクルーシブな社会、まちをつくっていくのか、インクルーシブ教育の在り方が大事になる。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● 話を聞いている中で、大人が勝手な基準を作ってしまうのではないかと、個性が少し強いだけなのかもしれないと考えてしまった。 |
| 市長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたち同士が教えあう時間を持ってほしい。その中で、子ども自身 |

- が、どう関わっていくのかを考えていくのではないか。
- 委員 ● 地域社会との関係を掘り下げて考えていくのは行政の役目である。地域の中で、障がいのある子どもも含めて、色々な子どもと関わる機会をもっと持ってほしい。
- 委員 ● 学校は学力、生きる力を身に付ける場所である。積極性を引き出すのは、担任1人にも、子どもだけにも任せきることはできない。人も時間も必要であるが、一人ひとりの子どもに対応できるよう知恵を出しながら進めていかなければいけない。
- 委員 ● 子どもたちの様子は自然体であり、日々の関わりの中で溶け込んでいるものであり、人権教育の基盤となるものである。
- 委員 ● 全国学力・学習状況調査の結果として、市内に支援を必要とする子どもが多いことが要因の一つなのであれば、学校、行政ともにやれることをやっていく必要がある。
- 市長 ● 自分の居場所が見つけれない子どもたちに、ソーシャルスキル、人と関わる力をつけていく必要がある。社会の中で人と関わり、自分を正しく出していける力をつけ、自立していくことが大事である。子どもの特性に合わせて力をつけていく学校教育、特別支援教育が大事である。
- 委員 ● 特別支援教育はやっていかなければいけないが、求め過ぎてはいけない。より強く考えないといけない、変わらないといけないのは、私たちではないか。
- 市長 ● 同時に必要である。一人ひとりの個性と受け止められる自分も作らないといけないが、発達障がいの中で不足しているものを充足してあげるのが教育である。生きづらい感を持たずに社会に出られるようにするのが教育だと感じる。
- 委員 ● 今年の成人式での先生からのビデオメッセージを聞いて、近江八幡市の教育は間違っていなかったと感じた。改めて、先生方には感謝申し上げたい。
- 市長 ● 市では義務教育までの期間を考えていかなければいけないが、本来はもっともっと上の、学びたいという意欲や生きる喜びを感じさせる高校や大学への広がり、就労への繋がりも考えていきたい。

終了 11時00分